

企業会計基準委員会  
有価証券の時価会計適用に関する意見表明  
ISS Japan 主席研究員マークゴールドスティン

I. ISS について

II. 会計基準の標準化

多数の国々に投資する機関投資家にとって、投資先企業の利益、そして運用利回りを比較することは大事である。

III. 有価証券の評価

コンピューター時代に、有価証券の時価を瞬時に計算することが可能。長期保有の有価証券に関して、時価ではなく簿価を使用する前提は、企業がその証券を永遠に保有する。しかし、その余裕がなくなった。保有するデメリットがあれば売却するために、短期保有と長期保有を区別する根拠が存在せず、時価会計に移行するほうが良いと思われる。

IV. 投資家の信用

投資家の信用を維持するためには、安定したルールが不可欠である。会計基準の土壇場での変更は市場の期待を裏切るおそれがある。海外の機関投資家は、よくグローバルインデックスファンドのかたちで日本市場に投資するが、そのインデックスを管理する側は、日本の投資環境が時代遅れだという印象があれば、インデックス全体に対する日本株の割合を縮小させる可能性が高まる。そうなれば、時価会計の適用を凍結するかしないかにかかわらず、インデックスに含まれている全ての日本企業が売却されてしまう。日本の株価低迷における対策として、持ち合い解消に抵抗するべきではなく、国内外のポートフォリオインベスターにとって魅力のある市場を作るべきであり、さらには透明かつ公平な会計基準が不可欠である。